

# 多摩っ子たちの 置戸見聞録

平成2年からはじまった「ふるさと交流事業」。昨年は置戸から14人の子どもたちが東京都多摩市を訪れ、たくさんの思い出を持ち帰りました。今年が多摩の子どもたちを迎える年。7月26日から8月1日までの6泊7日、6人の多摩っ子が置戸でホームステイし、自然あふれる置戸を体験。今回は、多摩っ子が置戸で「見て」「聞いて」「感じた」その生活ぶりを紹介します。

【参加者】 大前 朋葉さん（永山小6年）  
高橋 花さん（ " 5年）  
宮崎 瑞雪さん（ " 5年）  
宗川 直樹くん（ " 5年）  
横井 玲音くん（ " 5年）  
和田 藍海さん（ " 5年）  
十河 栄さん（ 引率者 ）  
堀江 咲子さん（ " ）



## 緊張の初顔合わせ

多摩市永山地区からやって来た6人の子どもたち。まずは歓迎交流会でホームステイ受け入れ家族との顔合わせ。最初は緊張した表情の多摩っ子たちでしたが、美味しい料理と楽しいゲームでいつの間にか置戸の子どもたちとも仲良しに。みんな置戸での自然体験を楽しみにやって来ましたが、特に常呂川ラフティングに期待している様子です。



## 木のまち置戸を体感

木工クラフト体験では、道産材のエゾマツを使ったキュービックパズル作りに挑戦。割り木工と呼ばれる木のクサビと木ヅチだけを使って材料を加工する技法に驚きながら、世界に一つだけのオリジナル品の完成を目指して製作作業に没頭し、自分の手で作る楽しさと木のまち置戸を存分に味わいました。



## 神秘の世界「風穴」

氷河期の遺存種といわれるナキウサギが生息する場所「風穴」を探検。重なり合った岩石のすき間からは冷風が吹き出し、周辺にはまるで緑のジュータンを敷き詰めたかのようにコケ類が覆っています。残念ながらナキウサギはお目にかかれませんが、自然が織り成す神秘の世界は多摩っ子たちにとってまさに感動そのものでした。